

「評価モデル」第1回全体会における 今後の取り組みについてのご意見〈抜粋〉

令和5年2月8日（水）午後1時30分～

（福澤議員）

- ・今は全議員からグループで吸い上げてきて、グループごとに評価をして、グループ長がそこをまとめていく手法になっているが、これからこのベースができた後にそれを進めていく段階になったときには、多分個々でやることも中にはあるし、常任委員会として取り組んでいくこともあるし、特別委員会で取り組んでいくこともある。この委員会では今年度これに取りかかっているとか、多分全部はできない。1年度で全てはできないので、今年度はどこから手をつけてどういう状態にしようかとか、そういう検討をしていかなきゃいけない。
- ・その部分を舵取りしていくためには、どういう仕組みが必要で、どういう形でやっていくのかって、そこまでいかないと多分進んでいかないとと思いますが、今の現時点ではその辺どういうふうにお考えになっているのか。

（永井統括）

- ・いつまでにどのようにどこからやるか。まさにこの議論をスタートするべき。

（井坪アドバイザー）

- ・現在ある議会改革推進会議なのか分からないけれども、どこかできちんと振り分けして、そうしてPDCAを回すようなところまで研究してもらおうということを今、考えている。
- ・5月以降、議会改革推進会議が振り分けた後に、それから、いつまでに何をやるという具体的な実践、進行管理まで行うことになるかと。

（日本生産性本部 野沢部長）

- ・評価をしたことというのが目的ではなくて、その結果、課題がなんであって、それをじゃあ、解決していくことで住民福祉の向上に議会が役立つものになっていくという、そこが本来の目的。評価したことということで満足していただくのではなくて、次のステップ、今のお話だと5月以降、そこからの活動というのが本格的に始まるということが一番の目的になると思います。

（同 千葉上席研究員）

- ・もう少し入れたほうがいいかなというのは、やはり政策における、1つ「PDCA」という言葉がありましたけども、江藤先生が良く言うやっぱり討議と決定です。

- 政策提言とかやった場合のその実行性をどうやって高めていくのかっていうのが、ほかの事例も研究されて、例えば近場ですと岐阜の可児市の委員会の代表質問とか、あとは岩手県の奥州市議会のように政策決議提案っていうかいろんな仕組みが開発されていますので、そういうのも参考にしながら飯田にあったような形のやつを取り入れていくのがいい。
- 市民参加なんですけども、市民参加もいろんな形で取組がされていて、同じように今、評価モデルを取り組んでいる福島県の会津若松市議会は、こういう政策評価モデルの検討を市民が参考人として入っていく形で一緒に検討されて、市民感覚を入れながらこの評価モデルをやっているというのが1つですし、同じ長野県の飯綱町の議会みたいに、政策提言自体を公募の市民と一緒にやる政策サポーター制度みたいな、そういうところから実は次の議員のなり手がどうも生まれてきているということですので、そういう事例も参考にされてみたらいかがか。4
- 広報・広聴の取り組みの結果として、議会の取組が市民の方に伝わって、市議選の投票率が全国的に下がっておりますけれども、それが高まるようなことにもつながるような方策も検討されてはいかがか。